

# しいのき



「秋津風・柏戸」初代歌川国貞画（天保初年）当館所蔵 山崎家資料

## 相撲はお祭り

名誉館長 三隅治雄

昨年来、大相撲ブームの再来で世間が湧き立っています。そのブームの因が、第一に若花田・貴花田兄弟の、いわゆる若貴の活躍にあることは周知のとおりで、二人の所属する藤島部屋が、当中野区内にあるだけに、よけい嬉しい気持ちがあります。それを「郷土びいき」と言われれば面映ゆいのですが、相撲というのは元々土地と土地とが競い合う行事で、力士はそれぞれの地域代表者。勝てば土地が豊作になるとか大漁が期待できるといって、住民が一喜一憂したものでした。言うなら年占の祭りで、力士の<sup>おしほ</sup>醜名に国名・地名をつけるのも、場内アナウンスで毎度力士の出身地を紹介するのも、そんな相撲の古俗に由来するのでしょうか。土俵に臨むのにかしわ手を打ち、塩をまく。江戸時代の浮世絵を見ると、そこには単なる競技を越えた華麗で重厚で気品高い祭儀性が感じられて、一瞬居ずまいを正したくなるのです。相撲はお祭りです。

# 文化財よもやま話

## 団十郎の目玉

私達の日常生活の中で、その一言が人を怒らせるというのはまああることですが、大抵は忘れてしまいます。今回は、その一言が一生つづいたというユーモラスなお話をしましょう。

明治浮世絵師の三傑の一人豊原国周は、人気歌舞伎役者を数多く描いていますが、その中で、助六で有名な稀代の名優九世市川団十郎の描き方だけが変化しています。

ことの起りは、明治11年(1878)10月の頃、市川団十郎が「似顔絵書きは役者に金を払って書かせてもらうのが当然、国周は横柄だ」と五世尾上菊五郎に語ったのがはじまりです。国周と仲のよい菊五郎はそのこ



写真1

とを話してしまいました。怒った国周は、その時を境に、団十郎を描く時は、ことさらに目玉をでっぱらすようになったといいます。

そこで当館所蔵役者絵の中から国周描く団十郎を見てみると、確かにそのようです。写真1は明治9年(1876)発言以前、写真2は明治29年(1895)発言後の作品です。比べてみますと、1はま



写真2

ふたの表現はありませんが、2は上まふたに一線加え下まふたも輪郭線をふくらませて、ことさらに出目に描いています。ほほえましい無言の抗議とはいえますが、ひょっとしてあなたも国周してませんか？

# 大地に眠る歴史

## 発掘された戦争の遺物

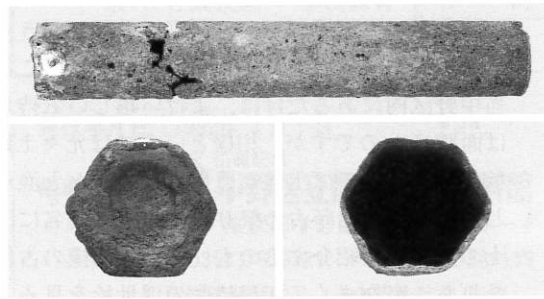
地面の下、1mのところで見られたこの鉄の筒は、ポッカーあいた口の部分がのぞけて、何やらいわくありげな雰囲気を感じさせます。



区内城山居館跡(中野一丁目)で遺跡調査中にみつかった鉄の塊は全部で4本、一辺4cmの六角形の断面をもつ、長さ50cmの中空の筒です。これは47年前(1945=昭和20年)5月25日に飛来した米軍爆撃機B29が投下したM69型焼夷弾で、遺跡の敷地の中には約10mごとに1本という割合で落ちていました。

焼夷弾は木と紙でできた日本の家屋を焼きつくすための兵器で、炸裂の規模は小さいが火災を拡大させる能力が高いものです。東京の空襲は敗戦の前年暮れから激しくなり、中でも下町を狙った「東京大空襲(1945年3月10日)」が知られています。5月25日夜半からの攻撃は後に「山の手空襲」と呼ばれ、250機を越すB29による無差別爆撃が行なわれました。中野区内でも大きな被害を受け、この地域の半分が焼失、2万戸以上の家屋が灰燼に帰したといいます。ここ城山の一带も紅蓮の炎に包まれました。

昨年はパールハーバー50周年のニュースが話題になり、まもなく第二次大戦終結後半世紀をむかえようとしています。ともすると風化しがちな戦争の恐しさですが、地下に埋もれたツメ跡は未だ朽ち果ててはいません。再び日の目を見た焼夷弾は、私たちに無言の警鐘を発しています。



▲ M69型焼夷弾(発掘資料)

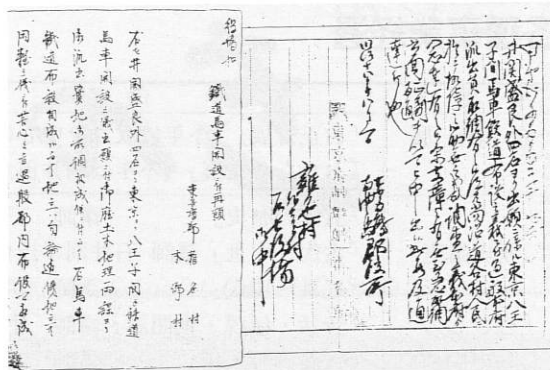
# 古文書つづり

## こやつ 小谷津家文書— ころけい 戸長役場文書—

当館で所蔵している小谷津家文書は、中野区南部の南台にお住いの小谷津家に所蔵されていた古文書です。

小谷津家文書は、すでに翻刻した検地帳や名寄帳(「小谷津家文書」第一・二巻)のほか、明治前期の大量の公文書からなっています。とくに最大の特徴ともいえる公文書は、現在の町村役場に当たる戸長役場で作成されたもので、雑色・本郷連合戸長役場の文書です。

戸長役場は明治11年から同21年まで置かれた町村役場ですが、その直接の指揮・監督は郡役所によって行なわれました。しかし、郡役所も大正15年には廃止されたため、村民から戸長役場、さらに郡役所にいたる過程で作成された公文書はほとんどが失われてしまっています。そうした状況の中で、この文書群は、小谷津氏が戸長役場廃止時に戸長を勤めていたために、そのまま所蔵され、現在まで散逸を免れた貴重な史料です。



これらの中には、明治12年および同19年に、村内の家ごとの坪数を調査した雑色・本郷両村の家屋調査書など、他に例を見ない資料をはじめ、本郷・雑色両村の沿革を略記した村誌沿革などがあります。また、当館で常設展示中の鉄道線路敷設反対の請願書や、統計報告書類など大量の郡役所への上申書、報告書などもふくまれています。

このように小谷津家文書には、明治初年の大きく変る地域の様子や、人々の生活をうかがい知ることのできる貴重な文書がたくさんあります

## 中野住来

資料館で勉強して 小学生の感想文から

- 昔の物がたくさんあって、とても勉強になった。たてあなじゅうきよの中に、ちゃんと人(人形)がいたのでおかしかった。(3年女)
- ふしぎな道具があった。み、千ばこき、ふみ台火ふき竹などをじっさいやってみせてくれた。くふうがよくわかった。(3年男)
- かごに犬をのせ「お犬さまのお通りだあー」と中野村のおかこいまでつれてきた。人がのらないで犬がのるなんてへんだ。(3年女)
- 縄文土器、弥生のムラ、村の絵図、古文書、使っていた道具、写真など、歴史を教えてくれるものがいっぱい、歴史が好きになりそう。(6年男)
- 資料館で見ると、とても短かく感じた歴史も、昔の人は、長い長い時間をかけてつくりあげてきたんだなあと思いました。(6年女)

## 中野昔話

### 屁の音には三種

おならにはね、ブースービーって、三つの音があるのブースービーって出したとかね。においはしないけど。

「きょうは、おならの出がいいからお天気だ」なんて、そういうことは言うね。

おならがよく出るときはお天気だなんて、そういうことは言いましたね。

もう亡くなっちゃったけどね、その人は歩いててね、自分で勘定してて二十いくつやりましたよ。いっしょに歩いててそういうこともありましたよ。べつに屁っぱり何ちゃんとは、呼びませんね。

(上高田 男 明治38年生)

# 事業報告

## 各種事業経過

事業名	内容	期間
企画展	「お正月展」(今年は双六を中心に展示)	1/5~2/2
	「おひなさま展」(今年は酒井美意子氏寄贈品等を中心に展示)	2/8~3/8
歴史講座 「むさしの 歴史探訪」	「芸能の歴史」 講師 三隅治雄氏(実践女子大学教授)	2/1
	「古代~中世」 講師 石井則孝氏(都埋蔵文化財センター調査研究部長)	2/8
	「近世~現代」 講師 伊藤好一氏(関東近世史研究会前会長)	2/15
	「昔話・伝説・世間話」 講師 中島恵子氏(日本民俗学会会員)	2/22
	「武蔵野の民俗」 講師 大島曉雄氏(文化庁伝統文化課調査官)	2/29
	「寺子屋から学校へ」 講師 財津哲夫氏(社会教育専門員)	3/7
文化財調査	本町三丁目15番 民有地試掘調査	1/20~1/21
	「鷺宮篠崎家長屋門調査」 宮崎勝弘(区文化財保護審議委員)	

### NEWS

#### ※ 来館者10万人突破!!

去る2月19日、開館以来約2年6ヶ月を迎え入館者数が10万人を突破しました。10万人目の栄誉を飾ったのは野方在住の石井修三さんでした。(右写真)

#### ※ 新刊案内 資料館にて販売

- 『中野城山居館跡』(東京でも数少ない中世)  
館跡の発掘調査報告 ¥800
- 『山崎家文書』I (江古田村名主山崎家に伝わる)  
古文書の調査・紹介 ¥2,600
- 『中野を読む』I (中野について書かれた)  
古文書の集大成 ¥500

### NEWS



▲ 10万人目の来館者に記念品を渡す依光教育長

※人事 3月31日付学芸係長吉田信一定年退職▷  
後任4月1日付福祉部保護課より岡地幸男  
9月30日付専門研究員串田紀代美退職▷後任12月  
20日付金野啓史、3月31日付専門研究員工藤敏久  
退職▷後任4月1日付山崎志野

## 入館状況

1991年1月~3月(71日間) (人)

一般	行政視察	学校教育	合計
13,792	218	1,475	15,485

発行年月日 1992年4月1日

編集・発行  山崎記念  
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 4中教社第1号)

### 句集「椎の実」より

篇目の

五線の音譜

椎落葉

山崎千枝

## 寄贈資料一覧

1991年9月11日~  
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
舟徳利・瓶・壺・茶釜他	14	坂井 照
中野の子供相撲開催披露書	6	大西 路男
旧紙幣・鉄筆・計算機他	8	根津 力三
棒ばかり・はっぴ・紙幣	4	篠崎憲太郎
本・ビデオ「遙かなる旅路」	2	実 相 院
雛人形他	一式	酒井美意子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。